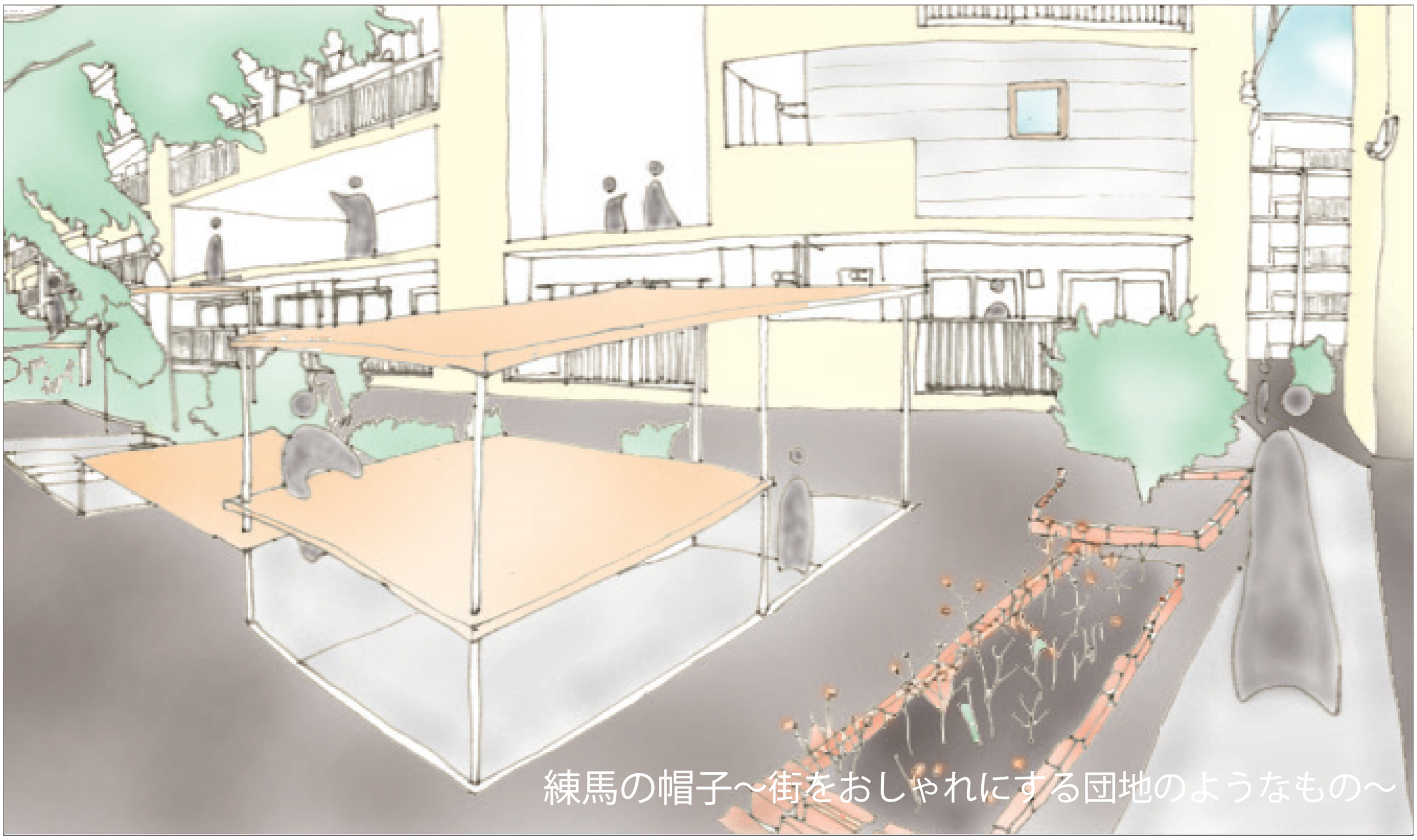


- 問題意識 -

01_ 団地衰退？

商店の衰退

南田中団地は戦後急速に必要だった居住空間供給のために生まれた。今、団地は老朽化が進み、団地住民の高齢化とともに団地再生の意識が高まっている。しかしなぜ建築には寿命があって住む人も歳をとるのは当たりえなのに衰退や老朽化といったことが騒がれてしまうのだろうか。

02_ 団地が団地でしかないこと

団地に見る個性

商店の衰退

団地自体は保育園や商店が入っている棟もあるが、多くは住空間のみで住民以外の人が入る余地はない。団地の庭も団地住民しか使わない場所になっていて綺麗な花壇がある個性ある庭でも、住民以外の人は立ち入りづらい場所になっている。唯一住民以外の人も利用できる商店も衰退しており、街の人の姿はない。

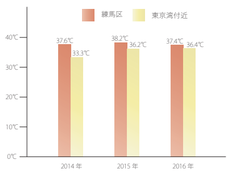
03_ 石神井川の記憶

旧石神井川と水田

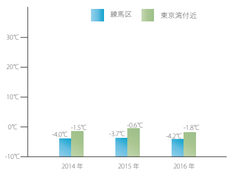
石神井川は今も流れている川であるが、その姿は本当の姿ではなく団地を建てるために整備された人工的な姿である。今団地があるところはもともと水田で、石神井川は農業用水路として活用されていた。しかし今、本来の石神井川は失われ、それによってできた団地もこれから街にとって必要でない者になろうとしている。ならば次はもう一度旧石神井川を顕在化させ旧石神井川と団地が街のための空間として共存していくべきではないだろうか。

04_ 坊主のような街

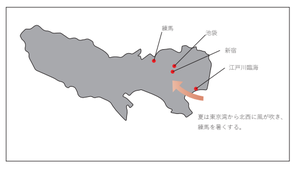
坊主は夏は暑く、冬は寒い。練馬も同じである。練馬は池袋や新宿の北西に位置しているため、夏は都心部の冷房で暖められた外気が東京湾から吹く風にのって練馬に来る。その影響で練馬はとても暑くなる。冬は日本全体が冷え込むときに海洋の恩恵を受けられず、寒いままである。練馬には「帽子」のようなものが必要なのではないだろうか。



過去 3 年の最高気温比較 (8 月)



過去 3 年の最低気温比較 (1 月)

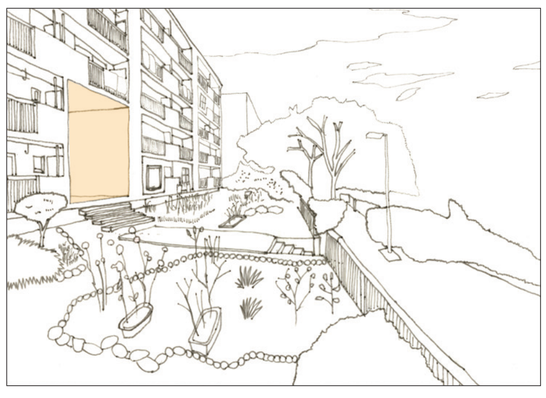


- 提案 -

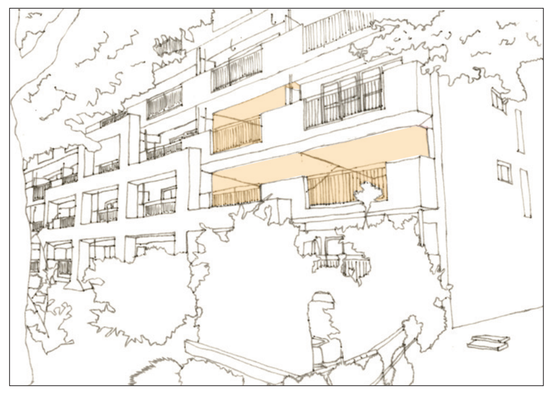
01_ 団地敷地分析

02_ 練馬の帽子

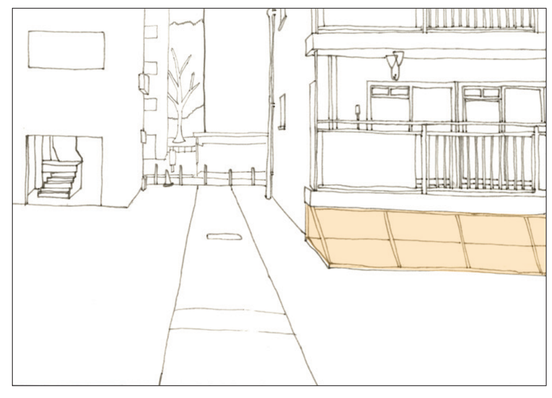
人の帽子には様々な形や素材、かぶる場面がある。おしゃれな帽子、制服の帽子、運動するときの帽子、チームの帽子、畑作業するときの帽子、キャラクター帽子、安全なヘルメット、顔も隠せる帽子、パーカーのフード…挙げだすときりがない。多様であるが共通点は人がかぶれて、軽くて、日除けになることである。そんな建築を考えていく。



団地貫通とインフラ整備



団地空間の組み合わせ



一階ベランダしたの空間化

03_ 今後の展望

団地自体を減築することで団地自体の見た目は軽くなり、街の人が利用できる空間にする。団地貫通、団地空間の組み合わせ、一階ベランダ下を空間化。インフラも整備し通り抜けられる団地にすることで団地に街の人がやってくる。今後空間の内部化、庭の帽子、旧石神井川沿いの帽子を考え多様な帽子の空間を作る。